

臨床研究に関するお知らせ (2011-055)

【研究課題名】

外来化学療法施行患者における血糖値測定の必要性の検討

【内容】

抗癌剤による化学療法を行う際には、吐き気止めとして副腎皮質ホルモン製剤（デカドロン、プレドニン、サクシゾン等）が使用されることがあります。外来化学療法室で治療を受ける多くの患者さんにも副腎皮質ホルモン製剤が投与されています。副腎皮質ホルモン製剤の副作用の一つに血糖値上昇の副作用がありますが、実際にどのくらいの頻度で血糖値が上昇しているのかは明らかになっていません。そのため、血糖値を確認する必要性も明らかになっていません。そこで、化学療法を行っている患者さんの血糖値がどのくらい上昇しているのか、血糖値の測定はどのくらい行えば良いのかを調べる研究を行います。

【対象】

2011年1月から2012年3月の期間中に、当院外来化学療法室で抗癌剤を投与された方が対象となります。

【方法】

カルテ情報の調査を行い、化学療法を行った後に血糖値が上がったかどうかを調査します。また、今後の化学療法を行う際に血糖値を測定する必要があるのかも調査します。

この調査の対象となる方にご協力いただけるかどうかは自由意思です。もし、お断りになられたとしても、治療などの点においてあなたの不利益になるようなことはありません。

調査の対象となっている方で、この研究への参加を希望されない場合には、2012年3月31日までに金沢大学附属病院薬剤部 崔（さい）までお知らせください。

2011年11月
金沢大学附属病院薬剤部
研究代表者 崔 吉道
電話 076-265-2046